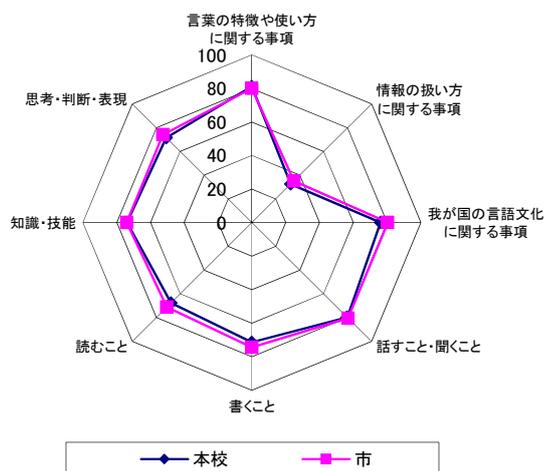


# 宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.1	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	32.5	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	76.1	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	79.9	80.4	77.7
	書くこと	71.4	74.3	62.9
	読むこと	67.7	71.2	65.8
	観点別	知識・技能	74.0	74.1
思考・判断・表現		71.6	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

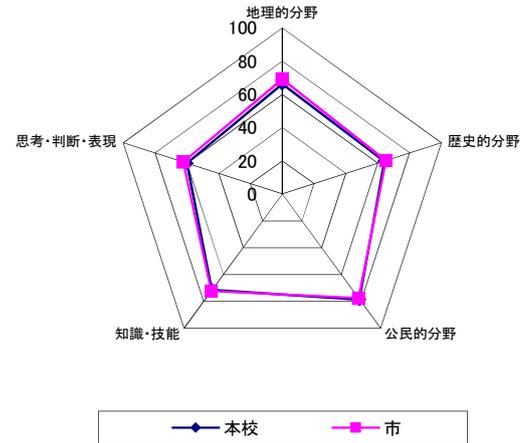
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>正答率は、市を1.1ポイント上回っている。</p> <p>○漢字を読む問題では、4問中3問が市の平均を上回り、うち1問は正答率が100%であった。</p> <p>○敬語に関する設問では市の平均を6.5ポイント上回った。</p> <p>●文法の用言に関する設問の正答率は、市の平均より6.7ポイント下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字学習については、定期的に行っている漢字テストを今後も継続して行う。</li> <li>敬語については、授業中だけではなく普段の生活でも正しく使えるよう指導する。</li> <li>文法に関する学習は、3年間を通して少しずつ積み上げていくものであるため、以前学んだことを復習してから新しい文法を学習できるよう、計画的に授業を行う。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<p>正答率は、市を2.7ポイント下回っている。</p> <p>●情報同士の関係を理解し、論理の展開の仕方を捉える設問では、市の平均を5.4ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞やレポートを作成する学習において、自らの考えを形成するために必要な情報を適切に読み取る力を身に付けさせるため、タブレット等を使って収集した情報を関係付け・比較・分類しながら整理する活動を取り入れる。</li> <li>説明文を読む学習では、事実と筆者の考えを区別し、論理的に読むことができるよう、表を使いワークシートを工夫する。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>正答率は、市を4.3ポイント下回っている。</p> <p>○現代語訳を手掛かりに古典を読む問題では、市の平均を0.9ポイント上回った。</p> <p>●歴史的仮名遣いについて答える設問では、市の平均を9.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的仮名遣いに関しては、漢字学習と同じように小テストを行い、知識の定着を図る。</li> <li>古典分野は苦手意識を持っている生徒が多いため、歴史的背景や当時の文化についても触れながら、生徒の興味・関心を高められるよう授業を工夫する。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>正答率は、市を0.5ポイント下回っている。</p> <p>○進行の仕方を工夫して話し合う設問では、正答率が市の平均を1.8ポイント上回った。</p> <p>●話の展開を予想したり、論理の展開を考えて話し合う設問では市の平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの話し合い活動等、互いに考えを述べ合い双方向に聞き合う活動では、協力してコミュニケーションを取りながら課題解決を行えるよう、発言の仕方や話し合いの進め方を指導する。</li> <li>プレゼンテーションやスピーチ等、話し手に耳を傾け、一方的に聞く活動では、話を聞き、内容を正確に理解しようとする力を身に付けさせるため、メモを取りながら内容を整理できるようワークシートを工夫する。</li> </ul>
書くこと	<p>正答率は、市を2.9ポイント下回っている。</p> <p>○解答形式が短答の設問では、市の平均を2.8ポイント上回った。</p> <p>●解答形式が記述の設問では、全てにおいて市の平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見文や感想文等の長文を書く機会を多く取り入れる。</li> <li>構成表等を利用しながら展開を考え、論理的な文章が書けるよう指導する。</li> <li>作文や意見文を書く学習では、お互いに文章を読み合い、推敲し合う活動を取り入れ、誤字脱字や原稿用紙の使い方についても確認する時間を取り入れる。</li> </ul>
読むこと	<p>正答率は、市を3.5ポイント下回っている。</p> <p>●論理の展開の仕方についての設問では、市の平均を6.9ポイント下回っている。</p> <p>○無回答率では、論理の展開の仕方についての設問で市の平均を僅かに上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の心情を読み取る際には、登場人物の言動や情景描写など根拠となる表現を考えるよう指導する。</li> <li>説明文や意見文を読み取る際には、作者の考えや体験、具体例など内容を分けて考え、整理しながら読み解くよう指導する。</li> <li>読み取ったことを整理しながらまとめられるよう、授業で使うワークシートの工夫を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	66.3	69.2	61.5
	歴史的分野	64.1	65.1	59.1
	公民的分野	78.6	77.6	71.6
観点別	知識・技能	71.5	72.2	66.8
	思考・判断・表現	60.0	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

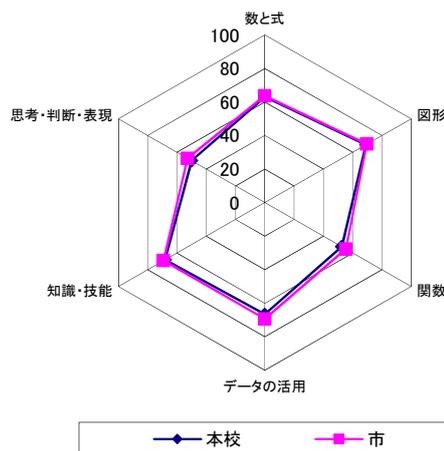
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	正答率は、市を2.9ポイント下回っている。 ○記述問題の正答率が、市より1.3ポイント上回っている。 ○世界の姿、日本の地域的特色に関する問題の多くは、正答率70%以上の問題が多くあった。 ●九州地方の地形の特色に関する問題の正答率が市の平均を6.2ポイント下回っていた。	・資料活用の技能を向上させるため、資料読み取りの際、分布や変化・推移等の視点を明示し、ICT機器(デジタル教科書・拡大投影器等)やタブレット等を活用し、考察させる活動を取り入れる。 ・「世界の姿」「日本の地域的特色」の学習では、諸地域の特徴を象徴する資料を提示し、地形・人口・産業等の特性を把握させ、他地域との共通性や相違性を理解させる。 ・「日本の諸地域」の学習では、白地図の作業を通し、地形や交通面を理解させる。産業面においては、複数資料を提示し、多方面から考えさせることにより発達の過程を把握させ、現状をとらえさせる。
歴史的分野	正答率は、市を1.0ポイント下回っている。 ○記述問題の正答率が、市より4.0ポイント上回っている。 ○「古代までの日本」の正答率が、市より7問中6問上回っている。 ●「近世の日本」の正答率が、市よりも下回っている。	・社会的な思考・判断・表現の力を向上させるため、言語活動(話し合い活動・討論等)や、文章表現の取組を継続して実施していく。 ・「古代までの日本」と「近世の日本」の学習では、時代ごとの特色を他の時代との比較を通して考察させたり、政治・文化・教育・対外政策等、各時代を象徴する社会的事象に注目をさせたりすることで、史実を正確に把握できるよう指導する。
公民的分野	正答率は、市を1.0ポイント上回っている。 ○6問中5問が75%以上の正答率になっている。 ●「公共の福祉」に関する問いが市の平均を9.4ポイント下回っている。	・授業のねらいの明示や小单元ごとの振り返り活動の重視、定期テストの有効活用等の方策を促進する。また、事象の表層的な理解のみだけでなく、事象間の相関・因果関係にも留意させ、理解が深まるよう指導を工夫していく。 ・「私たちの生活と現代社会」の学習では、現代社会の大きな特色としてのグローバル化、少子高齢化、情報化について理解させ、様々な写真や資料を読み取らせながら現状を把握させる。 ・「人間の尊重と日本国憲法」では、基本的事項を理解させた上で、問題を繰り返し解いたり、記述式問題を多く取り入れたりしながら、多角的・多面的に考えさせるようにしていく。

# 宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	63.0	63.7	61.5
	図形	68.9	69.6	61.1
	関数	52.4	55.4	43.5
	データの活用	66.5	69.3	64.2
観点別	知識・技能	68.2	69.2	65.3
	思考・判断・表現	50.1	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

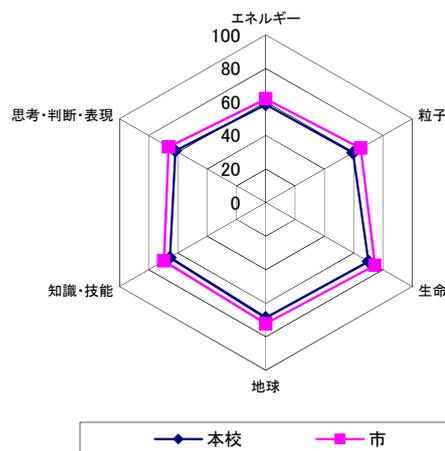
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>正答率は、市を0.7ポイント下回っている。</p> <p>○式の展開と因数分解に関する問題では、市の正答率を上回っている。</p> <p>●式の計算の記述問題では、市の正答率を4.7ポイント下回っており、無回答率が市の平均より2.1ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算の復習問題を授業の最初に解かせるなどして、基本的な計算力を高める。</li> <li>・様々な説明問題に取り組み、自分の考えを数学的な用語を用いて書かせる機会を増やし、思考力や表現力を高める。</li> <li>・方程式の文章題などの応用の問題について、多くの問題に触れさせていくとともに、習熟度に分けた少人数学習を行い、個に応じた習熟を図る機会を設ける。</li> </ul>
図形	<p>正答率は、市を0.7ポイント下回っている。</p> <p>○証明に関する問題では、市の正答率を上回っている。</p> <p>●折り目の線の作図についての問題では、市の平均を3.1ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの作図問題に触れさせ、図形の見方を身に付けさせる。</li> <li>・いろいろなパターンでの証明問題に触れさせ、多様な見方・考え方を引き出すように指導を工夫する。その際、習熟度別に分けるなどして、生徒一人一人の学習内容の定着度に合った問題に取り組ませる。</li> </ul>
関数	<p>正答率は、市を3.0ポイント下回っている。</p> <p>○比例・1次関数の表を読み取り式に表す問題では、市の正答率を3.6ポイント上回っている。</p> <p>●比例・1次関数の記述問題では、市の正答率を2.5ポイント下回っており、無回答率が市の平均より2.0ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1, 2年次の学習内容を、授業の最初に小テストなどの形で復習し、既習事項の定着を図る。</li> <li>・グラフや座標が何を表すのか、どんな意味があるのかを考え、定着を図るために、グループでレポート等を作成する学習活動を取り入れる。</li> <li>・表と式とグラフの相互の関係性を身に付けさせる、基本的なことを丁寧に指導できるよう授業改善を行う。</li> </ul>
データの活用	<p>正答率は、市を2.8ポイント下回っている。</p> <p>○ヒストグラムを読み取る問題では、市の正答率を1.2ポイント上回っている。</p> <p>●ヒストグラムの特徴を読み取り説明する記述問題では、市の正答率を4.5ポイント下回っており、無回答率が市の平均より4.4ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフやヒストグラムの特徴から読み取り、言葉で説明し合う学習活動を取り入れることで、主体的・対話的で深い学びを感得させ、記述問題にも対応できる学力を身に付けさせる。</li> <li>・身近な資料を用いた教材を活用することで、生徒の興味・関心を喚起する授業を工夫する。</li> </ul>

# 宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	58.4	61.8	60.6
	粒子	59.5	64.8	54.0
	生命	70.1	74.5	66.6
	地球	68.7	72.1	63.0
観点別	知識・技能	65.5	69.6	63.4
	思考・判断・表現	61.8	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

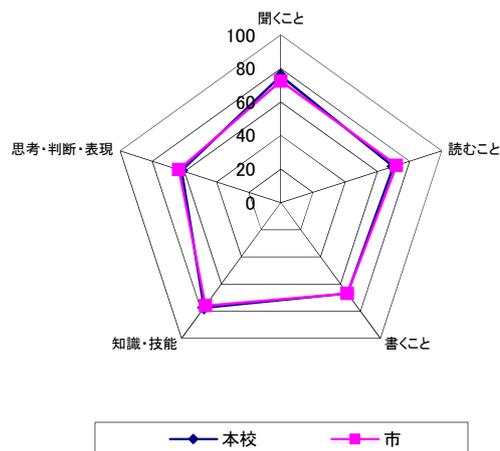
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>正答率は、市を3.7ポイント下回っている。</p> <p>●位置エネルギーと運動エネルギーの移り変わる運動の問題では、市の正答率より10.1ポイント下回っている。</p> <p>○電流が流れているコイルが磁界から受ける力の向きを反対にする方法の問題については、市の正答率より1.9ポイント上回っている。</p>	<p>・映像資料などを用いて、エネルギーの性質や規則性を身近な現象と関連付けて理解できるよう、指導方法を工夫する。</p> <p>・運動する物体のエネルギーの移り変わりについては、問題演習の時間を十分に確保し、力学的エネルギー保存の法則と合わせて理解を深めさせる。</p>
粒子	<p>正答率は、市を5.3ポイント下回っている。</p> <p>●熱分解後の物質の性質を問う問題では、市の正答率より10ポイント以上下回っている。</p> <p>○気体の集め方の記述問題は正答率が70%だった。</p>	<p>・化学変化については、原子や分子のモデルを用いて話し合いながら考察させ、理解を深める活動を取り入れる。</p> <p>・化学反応後の物質の性質を調べる方法については、身の回りの物質で学習した内容が活用できるよう復習を行い、自ら計画を立て実験する内容を取り入れる。</p> <p>・気体の発生方法や性質については、基礎の定着を図るために、問題演習を繰り返し行うように指導する。</p>
生命	<p>正答率は、市を4.5ポイント下回っている。</p> <p>●植物の体のつくりから分類する問題では、市の正答率より10.3ポイント下回っている。</p> <p>○細胞分裂の過程を問う問題では、市の正答率より1.4ポイント上回っている。</p>	<p>・植物や動物の分類については、ICT等を活用して親しみのある生物の特徴を調べ、分類の基準を話し合いながら見つけられるよう、主体的・対話的で深い学びにつながる活動を取り入れる。</p> <p>・生物の体のはたらきについては、図や映像資料を用いて、体のつくりとともに器官のはたらきと関連付けて、総合的に理解できるよう指導を工夫する。</p>
地球	<p>正答率は、市を3.5ポイント下回っている。</p> <p>●寒冷前線の前線面の雲のようすについての知識を問う問題では、7.4ポイント下回っている。</p> <p>○初期微動継続時間を求める問題では、正答率が80%以上となっている。</p>	<p>・前線の通過と天気の変化については、気象観測データや天気図と実際の経験を関連付けながら、前線通過に伴う様々な天気の変化を考察できる授業を工夫する。</p> <p>・地震の伝わり方については、3年環境分野と関連付けながら地震の揺れの伝わる速さや発生時刻を求める問題演習を繰り返し学習させ、定着を図る。</p>

# 宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	75.5	72.5	70.5
	読むこと	70.0	71.9	66.9
	書くこと	66.8	66.8	59.7
観点別	知識・技能	77.4	76.0	73.9
	思考・判断・表現	61.8	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>正答率は、市を3.0ポイント上回っている。</p> <p>○対話の内容を聞き取り、通学手段を尋ねられて英語で答えることができる問題では、市の平均を8.8ポイント上回っている。</p> <p>●英文を聞き、その内容に合う絵を選ぶことができる問題では、市の平均より6.0ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で適切な場面設定をし、場面に合った会話力を養う。</li> <li>リスニングの問題では、教科書の問題に取り組ませるだけでなく、プリント学習などで絵を選ぶ問題も取り入れる。また、まとまりのある英文を聞いて、その内容から適切な答えを選択する活動を多く取り入れる。</li> </ul>
読むこと	<p>正答率は、市を1.9ポイント下回っている。</p> <p>○英文の情報を正しく読み、その内容を理解することができる問題では、市の平均より2.1ポイント上回っている。</p> <p>●メールを読み、下線部thatが指す内容を把握する問題では、市の平均より7.3ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メール文を題材とした文章にも慣れ親しめるような問題を定期テストなどで取り入れることにより、素早く正確に長文を理解する力を身に付けさせる。</li> </ul>
書くこと	<p>正答率は、市と同じである。</p> <p>○英文を正しい語順で書く問題(現在完了(継続)の語順)は、市の平均より10.3ポイント上回っている。</p> <p>●場面に応じて、対話の流れに合った英文を正確に書く問題は、市の平均より7.2ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な文法の定着が図れるような活動を、授業に多く取り入れる。</li> <li>対話の流れを理解し、その流れに合った英文を正確に書く活動を、授業の中に取り入れる。</li> <li>書くことへの抵抗感を減らすために、自己表現の時間を増やし、自分の意見や考えを、まとまった英文で書く力を身に付けさせる。</li> </ul>

## 宇都宮市立瑞穂野中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<p>・自主学習ノートの作成 (学習習慣の確立と、家庭学習の充実を目指して)</p>	<p>・自主学習ノートの活用 生徒は、毎日1ページ以上を目安とした自主学習ノートを作成する。</p> <p>・学芸委員が自主学習ノートの提出状況を記録し、「自主学習優秀賞」の委員会表彰を行う。</p> <p>・定期テスト対策問題を学芸委員が作成し、1週間前に生徒に配布し、テストに向けて、生徒の学習意欲向上を図る。</p>	<p>「ふだん、学校の授業以外にどれくらい学習しているか」の問いでは、3時間以上学習している生徒の割合が、各学年とも市の平均を上回っており、30分未満の生徒の割合も、各学年とも市の平均を下回っている。本校で継続してきた自主学習ノートの活用により、学習習慣の定着が図られた結果の表れであると考えられる。一方で、学力に関する調査項目では、平均正答率が低下している項目も多く存在しているため、今後は学力向上を目標とした、自主学習ノートの内容充実に向けた指導を工夫していく。</p>
<p>・論理的に考え、思考を深め合う学習</p>	<p>・早く正確に読み取り、他の考えをきちんと聞き取り、論理的に言語表現するなどの「共に学ぶ力の育成を目指した授業」を推進する。 目標の明確化と振り返り活動 研究授業を通しての授業改善 ミニ研究授業 等</p>	<p>「先生や友達の話をも、最後まで聞いている」「グループなどの話し合いに自ら進んで参加している」「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」の問いの肯定割合が、ほとんどの学年で市を上回っている。授業中に学び合い活動を積極的に取り入れている成果であると考えられる。今後も、その力を向上させていくために、授業の発問の工夫するなど、教員の意識向上を継続させる。</p>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・基礎・基本的事項の理解を深めていくことと、そこからより発展的な内容へ取り組んでいこうとする姿勢とその環境を整え、準備していくことが大切である。例年課題となっている自主学習ノートの質の向上があげられる。「1ページだけやればいい」等の安易な発想から漢字練習や英単語練習に走りがちな生徒が多くなっている実態から、その日の授業のまとめや、苦手分野の克服のための学習など、自分の進路実現のために必要な学習の「きっかけ」になるノート作りになるよう指導していく。

・定期的に国・県・宇都宮市の調査結果を分析し、対策を話し合うことにより、学習指導上の課題を組織的に解決できるよう、校内研修の充実を努めていく。

・「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために、学習課題の提示、中心的な学習活動や活動に適した学習形態の工夫、活動を充実させるタブレットの活用、学習意欲を引き出す発問、思考を助ける板書、まとめや振り返りの場の設定など、1単位時間の授業の質を向上させる。